

2026 年 9 月 17 日

各 位

SBI デジタルプラクティス株式会社
教保生命保険株式会社

教保生命保険との日本・韓国間におけるステーブルコインの活用を見据えた クロスボーダー取引の実証実験に関するお知らせ

SBIホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役会長兼社長：北尾 吉孝、以下「SBIホールディングス」）の子会社で、Canton Network関連事業を営むSBIデジタルプラクティス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：下津 龍生、以下「SBIデジタルプラクティス」）と、SBIホールディングスの持分法適用関連会社であり、韓国有数の生命保険会社である教保生命保険株式会社（本社：ソウル市、Chairman & CEO：Chang-Jae Shin、以下「教保生命」）は、将来的な円建てステーブルコインの活用を見据えた、日本と韓国をまたぐ国際取引の実用性を検証する実証実験を実施いたしましたので、お知らせいたします。本取り組みは、ステーブルコインの利用を想定した次世代のデジタル資産決済の仕組みを検証したものであり、今後の日韓におけるデジタル金融分野の協業を拡大する先駆的な事例となることが期待されます。

今回の実証実験では、円建てステーブルコインの仕様を想定した検証用トークンを日本側から送付し、国境を越えた交換・決済を経て、最終的に韓国側で受領するまでの一連のプロセスを検証しました。このシステム検証は、金融機関向けのパブリック・ブロックチェーンである「Canton Network」のテスト環境にて実施しました。両社はこれを単なる技術的なテストにとどめず、デジタル資産を活用した新たなビジネスモデル構築に向けた協業の可能性を探ります。

現在の国際送金は、複数の金融機関や国際的な決済ネットワークを経由するため、着金までに時間とコストがかかるという課題を抱えています。ブロックチェーン上のデジタル資産であるステーブルコインを活用することで、こうした仲介プロセスを簡略化し、より迅速で低コストな決済ネットワークを構築できる可能性があります。本プロジェクトは、こうした利便性を実際に評価し、両社で次世代の国際金融インフラのあり方を共同検討していく点に意義があります。

今回の取り組みを通じて、教保生命は海外から送付された検証用トークンを韓国の金融機関として受け取り、安全に保管・管理するための業務フローを先行して検証しました。今後、デジタル資産市場の法整備や制度化が進展した際に、海外への投資やデジタル決済、トークン化された資産のやり取りなど、実際の金融実務で必要となるノウハウを蓄積することが可能となります。

両社は今回の実証実験を、これまでのデジタル金融分野における協力関係をより実務に近い実践的な段階へと引き上げる契機と位置づけています。将来的には、国際決済にとどまらず、資産運用分野での連携や新たな共同ビジネスモデルの開発など、幅広い領域へと協業を拡大していくことを

視野に入れており、両国の金融機関におけるデジタル資産分野の協業を推進する出発点となることを目指します。

■ SBIデジタルプラクティスについて

SBIデジタルプラクティスは、金融機関向けパブリック・ブロックチェーン「Canton Network」に特化した事業を展開する、SBIホールディングス株式会社の100%子会社です。Canton Networkを活用したオンチェーン金融領域における事業開発、システム構築、運営を推進しています。

商号	SBIデジタルプラクティス株式会社 (旧商号：SBIセキュリティ・ソリューションズ株式会社／英文名称： SBI Digital Practice Co., Ltd.)
所在地	東京都港区六本木一丁目6番1号
代表者	下津 龍生
事業内容	Canton Network に特化したオンチェーン金融領域の事業開発・システム構築・運営
出資比率	SBI ホールディングス 100%

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ先：

SBI ホールディングス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 03-6229-0126